



よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 ⑦②

～帰去来 理事長退任に想う～

さて、6年前理事長就任以来書き綴ってきた「埋め草」、理事長業務の余白を埋める短いエッセイも今回 72 回で私の役は終了です。後は後任者に引き継ぎます。組織ではトップが何を考え、感じ、どんな価値観を持っているか、メンバーはトップの言動、発言、文章からそれを感じ想像し、理解するものです。それがリーダーシップを支えます。この埋め草が少しでも私というリーダー理解になっていたら、この散文を書き続けてきた努力が報われたというものです。

さて最終回のテーマは私自身の心象風景をお伝えすることで有終のそよ風をお送りしたいと思います。私は 26 年前、1995 年、50 歳の人生の曲がり角を迎えた折、「夕映えのとき」というエッセイ集を出版しました。その後 2006 年、立教大学の教員としてサバティカル研究休暇でフィンランド、ニュージーランドでの長期滞在の機会を持ちました。半年ずつの滞在でしたが、それまでの全力疾走の生き方に休息、心静かに立ち止まり、明日の生き方を考える機会ともなりました。その頃から強く心に印象づけられていた映画があります。「黄昏」という米国の作品です。それは政治的なスタンスの違いから、父と娘の深刻な葛藤を抱えていたヘンリーフォンダとジェーンフォンダの関係を洗いなおす映画でした。キャサリンハップバーンが老妻役を好演しています。筋書きはともかくですが、ヘンリーフォンダが演ずる偏屈な元大学教授の老人が、たまたま気の合わない娘から、世話を押し付けられた孫との交流を通じ、心を開いていきます。老いの受容です。そこは湖畔のコテージ、昔の栄光、残り香があります。そして湖面には、さざ波に照り映える夕映えの湖が映し出されるのです。原題は On Golden Pond、まさに「夕映えのとき」でした。私の多少現実逃避的で旅行好きな心の旅路の行き先はここなのだと感じ入りました。

1973（昭和 48）年から働いた至誠学舎の第一線を引く今、「夕暮れのときはよい時 かぎりなくやさしいひと時」堀口大学の詩片を口ずさみながら、「帰去来」帰りにむいざ、夕映えの中へ、と心穏やかに想うので

理事長 橋本正明



「夕映えのとき」1995.12 発行



夕日に映える秋谷の海 2020.1.3 筆者撮影

事業本部長メッセージ

爽やかな皐月も、平年より早い梅雨入りか、紫陽花で気持ちは和みます。

写真のキャラクターは東京生まれのミンジーと呼ばれ「民生・児童委員」のイメージキャラクター、5月21日は「民生委員・児童委員」の日。活動強化週間で「普及・啓蒙」の活動は今年も中止です。代わりに路線バス内ステッカーで、ミンジーも登場し「あなたの町にもいます民生委員・児童委員」と掲示で呼びかけています。さて、平成 28 年 12 月、民生・児童委員の委嘱を受けて、研修とベテラン先輩の助言を頂きながら、何とか 2 期目になっています。多摩川から法人本部周辺、立正校成会辺り、約 700 世帯の区域が担当です。2 割は 70 歳以上の高齢世帯、その半数近くは 1 人暮らし世帯の地域です。身近な見守り役として、「1 人暮らし高齢世帯実態調査」での訪問調査、「生活、教育資金」訪問確認、「災害時緊急要避難者」把握、「高齢者の集い」案内等、例年の活動も自粛、制限しながらの困難さは続いています。



緊急事態宣言下のパンデミックの今、身近な心配事等でも高齢者でコロナワクチン予約接種等、繋がらない、難しいと声を聞きます。まだこれからもどんな困りごとがあるか分からない、今だからこそ心に響く支援に繋がればと思います。この地域は大変お世話になった大切な故郷であります。せめて、安心した暮らしが「我が事として共に」これからも地域のお隣さん感覚で丸ごと育みたいと思います。



**あなたの町にもいます
民生委員・児童委員**

※民生委員は児童委員を兼ねています

妊産婦・赤ちゃんから高齢者まで、生活上のお困り事の相談に乗り、内容に応じて適切な関係機関・団体につなぎます。
ご自身のご事情でも、地域で心配している方のご事情でも構いません。

私たちは、厚生労働大臣から委嘱されており、守秘義務があります。

安心して、ご相談ください

ミンジー

路線バス内ポスター

保育事業本部長

稲永勝行

事業本部情報

児童事業本部

児童事業本部かしの木プラザの地下1階に昨年12月オープンした「子育てサロン」ですが、なかなか収束に向かわない新型コロナ感染症を警戒し、園内の子どもたちのみの活用としておりました。ここでむしろ長引く自粛生活でくたびれてしまっている親子が安らげる新たな場所として、地域への開放を徐々にしていく事にしました。予約制で時間制限をつけて、おもちゃの消毒など感染予防には万全を期してお待ちしておりますので、法人内でご興味のある方は是非ご連絡ください。(至誠こどもセンター 島田美喜)



保育事業本部

新型コロナウイルスで今年の至誠まつりは残念ながら中止となりました。今年は予防接種が進み開催できることを祈ります。第1回の至誠まつりは運営担当として参加させていただきました。アウリンコの建物ができる前で大きなテントの中で3事業本部が協力し、保育事業本部は年長児の体操、職員バンドも参加したことを覚えています。

他の事業本部のとの交流はとても刺激的でした。同じ法人でも文化が違います。至誠まつりの打ち上げは、高齢事業本部の皆さんの「人を招きいれ方・welcome」がとても素敵で凄い居心地がよかったことを今でも忘れません。

そこで私はコミュニケーションについて勉強したいと思い、パン教室に通いながら2つのミッションを作りました。一つはおいしいパンを作る。もう一つは始めて会う方と積極的にコミュニケーションをとるです。パンを焼くことはできるようになりましたが、コミュニケーションは今でも私の課題です。きっかけくださった至誠まつりは6月に退任される橋本理事長のリーダーシップのもとにスタートされました。これからも意を継ぎ、3事業本部が協力し、「まことの心」を身につけた人たちが力を合わせて、地域で活躍できる組織を皆さんで醸成してまいりましょう。橋本理事長ありがとうございました。(保育事業本部 長谷川育代)

高齢事業本部至誠ホーム

新型コロナウイルスの影響を受けて、1年と数ヶ月が経過しました。その間、通所介護事業所の〈もとまちデイホーム〉は新型コロナへの感染を怖れた方々の「利用控え」による新規利用者の減少など大きな影響を受けています。当然、「利用控え」は地域の高齢者にとっても外出機会の減少による認知症状の悪化、下肢機能の低下など大きな影響が出ております。しかしながら、もとまちデイホームではマイナスな影響だけでなく、プラスの影響も出ています。その最たる例は、コロナ禍におけるスタッフの新たな取り組みです。具体的には「どのような感染予防対策を講じていけば、安心してご利用頂けるのか?」、「このような時期だからこそ魅力的な活動メニューを開発出来ないか?」、「どのように広報を工夫していけば、新規利用者を増やしていけるのか?」などの取り組みです。その効果もあって、緊急事態宣言下にあっても少しずつ新規利用者が増えてきています。まだまだ、新型コロナウイルスの影響は続くと思われまます。今後も一人でも多くの利用者の方々に安心してご利用頂けるよう、ピンチをチャンスと捉えて現場のスタッフが一丸となり様々な取り組みを進めていきたいと思っております。

(至誠国分寺ケアセンター長 長畑達也)

本部事務局だより (ワクチンとオリンピック)

新型コロナウイルスのワクチン接種が本格化している。私は上級国民でも市長でもないが、1回目の接種は終わり6月6日に2回目の接種を行う。個人的にはこれで一安心、少しは出かけたり、友人と会ったりできるだろう。しかし、全国レベルでは接種率は一桁台であり、世界的に見ても極めて低い水準に止まっている。こんな中で、新手の変異ウィルスが世界的に拡大しており、コロナ禍の優等性の国でさえ新たな対策が不可欠となっている。世論調査では国民の半数以上がオリンピック開催を疑問視している。さらに外国からも開催に疑問の声が上がってきている。しかし、IOCも日本の政府もその疑問に答えず「多少の犠牲を払ってでも開催する」と意気込んでいる。「誰がどんな犠牲を払うのか?」「日本国民が命の犠牲を払うのか?」「日本政府が金銭的な犠牲を払うのか?」いずれにしてもIOCは自ら犠牲を払うつもりは全くない。何故なら開催するのは日本だからである。放送権料だけはしっかりIOCに入るのである。

(法人事務局長 野島忠幸)

理事長の埋め草も、回を重ねること72回。思わず第1号の埋め草(2015年7月号)を読み返してみたら、さすがの理事長の文章も硬い!のびっくり。ここで交代になりますが次期理事長の発信も楽しみにしております。(雲)